

発行—2008年2月29日

編集—群馬県大学図書館協議会「会報」編集委員会 前橋市荒牧町4-2(群馬大学総合情報メディアセンター内) TEL.027-220-7178



—平成19年度 第1回大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修風景—

CONTENTS

■ 平成19年度 第1回大学図書館研究会報告	2
■ トピックス	11
■ お知らせ	11
■ 第5回群馬県図書館大会について	12
■ 編集後記	12

平成19年度第1回大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修 －テーマ 魅力ある図書館を目指して－

平成19年9月21日(金)、高崎経済大学を会場に標記研究会が開催され、27名の参加がありました。いつも利用者であふれ活気ある図書館、そんな図書館を図書館員なら誰もが夢見ているはずです。今回のテーマ「魅力ある図書館を目指して」は、そんな図書館を実現するにはどうしたらいいのだろうかと日々苦闘されている図書館から4名の方々に事例報告をしていただきました。以下にその時のレジュメを掲載いたします。

◆「学生参加型企画“学生図書選定”キャンペーンを実施して」

群馬大学総合情報メディアセンター

図書館工学分館 専門職員 柴内香織

学生参加型企画
学生図書選定キャンペーン
“総額100万円買っちゃうぞ!”を
実施して

群馬大学総合情報メディアセンター図書館 工学分館
柴内香織

2007/09/21 群馬県大学図書館協議会 大学図書館研究会 1

What's
“学生図書選定キャンペーン”?

- 学生が、図書館に置く資料(学生用図書)を、自分たちで選定するイベント。通称「100万円キャンペーン」
- 第1期(H16-18)、第2期(H19-21)
- 予算 100万円
 - 図書館備付資料費の約1割
 - 教員推薦予算を100万円減額して充当

2007/09/21 群馬県大学図書館協議会 大学図書館研究会 2

学生図書選定キャンペーン 工学部図書館では、学生の皆さんによる図書の選定を行います。
総額100万円買っちゃうぞ! 2007

第1次では、232冊 750,135円の推薦があり、107冊 33万円分を選定しました。
※推薦内容/MP3プレイヤー・エンジン・CD-ROM/教室で読む参考書/仕事のための12の基礎力/カラオケの練習 etc.

第2次も、たくさんの推薦お待ちしております!

10月1日(木) 選出開始!

2007年キャンペーンキャラクター 買っちゃうぞ!クマ

★推薦方法(個人推薦)
①工学部図書館ホームページのキャンペーンサイトから推薦
②キャンペーン「推薦用紙」に記入して、学内の各所に設置する「回収箱」に入れてください。

★用紙・回収箱設置場所 図書館、各学科 他

★選定の対象外のもの 教科書、TVドラマのDVD等、雑誌の継続購入など

★お問い合わせは 工学部図書館 TEL 0277-30-1075 / FAX 0277-30-1082
E-mail: elib100my@lib.gunma-u.ac.jp

キャンペーンサイト <http://www.lib.gunma-u.ac.jp/elib/100my/>

カテゴリ-B第2次締切
10月19日
(金)

2007/09/21 群馬県大学図書館協議会 大学図書館研究会 3

どのへんが「学生参加型」?

- 事前打ち合わせ(学生+職員)
↓ キャンペーンサイト、ポスター、推薦用紙、回収箱等の作成(職員)
- 図書の推薦(学生)
↓ 集計・資料作成(職員)
- 選定委員会(学生10人程度、年2回)
↓ 発注・整理(職員)
↓ 展示・貸出(職員)
- 広報(職員+学生)

第1期: 生協委員、図書館アルバイト、大学祭委員
第2期: 公募、図書館アルバイト、勧誘、図書委員の先生の研究室の学生

2007/09/21 群馬県大学図書館協議会 大学図書館研究会 4

推薦状況

	H16	H17	H18	H19 (第1次)
人数	7+41人 8研究室	111人 7研究室	85人 9研究室	56人 15研究室
のべ冊数	422冊	490冊	444冊	308冊
金額 (税込定価)	1,418千円	2,423千円	2,892千円	1,594千円

2007/09/21

群馬県大学図書館協議会 大学図書館研究会

5

選定状況

	H16	H17	H18	H19 (第1次)
専門分野	121冊 711千円	134冊 741千円	96冊 910千円	68冊 574千円
教養・娯楽	226冊 273千円	218冊 321千円	86冊 158千円	59冊 78千円
進学・就職	33冊 67千円	30冊 45千円	9冊 123千円	16冊 19千円
他の予算	12冊 72千円	8冊 85千円	19冊 105千円	10冊 21千円

2007/09/21

群馬県大学図書館協議会 大学図書館研究会

6

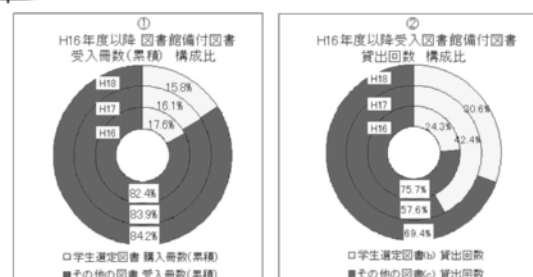


2007/09/21

群馬県大学図書館協議会 大学図書館研究会

7

貸出状況



2007/09/21

群馬県大学図書館協議会 大学図書館研究会

8

実施の背景

中期目標「学生の勉学を促進する学修環境及び支援体制を整備する」

- 中期計画「学生の自己学習を促進するために、図書館の充実を図る…」
- 実施計画「学生用図書を充実させる…」

事業計画 教育支援区分 本館「学生が集まる図書館にする」工学部分館「もっと利用される図書館を目指して」⇒「学生参加型」図書館(図書館の充実を図るには、学生の支持が必要不可欠)

「学生による
図書選定」

平成16年度事業計画で策定、工学部分館運営委員会が承認。20年計画(H19-21)
～目標「図書館の利用率を高める」～
～計画2「学生の要する高度の資料の収集・学生が選定に参加する」～
※計画2により計画1「貸出冊数を増やす」への効果も期待

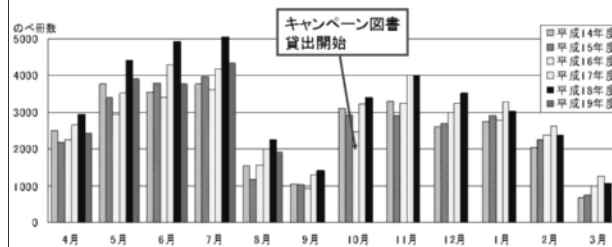
過去3年程度の教員選定図書の貸出状況を追跡調査 → 半数は貸出実績なし

2007/09/21

群馬県大学図書館協議会 大学図書館研究会

9

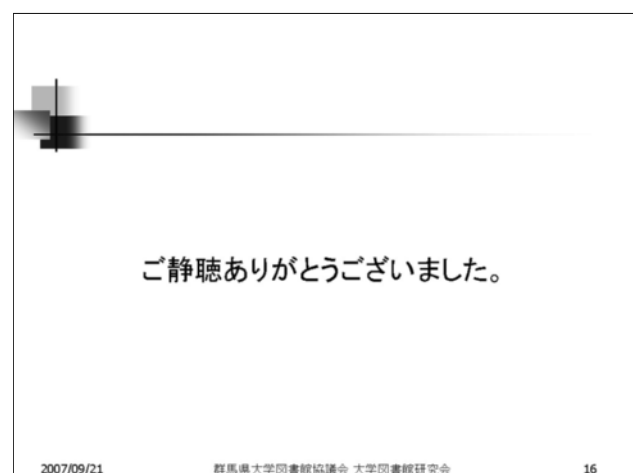
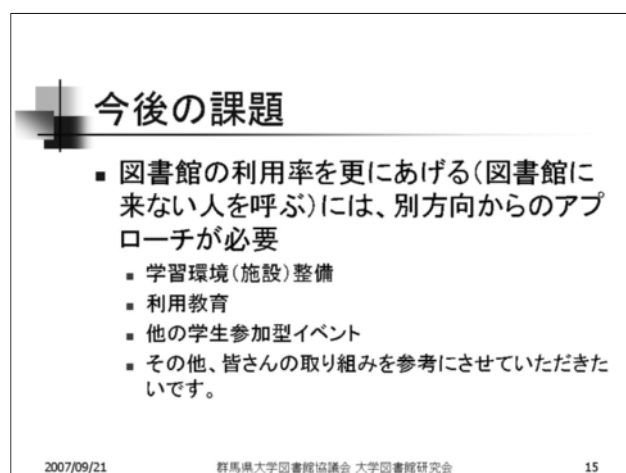
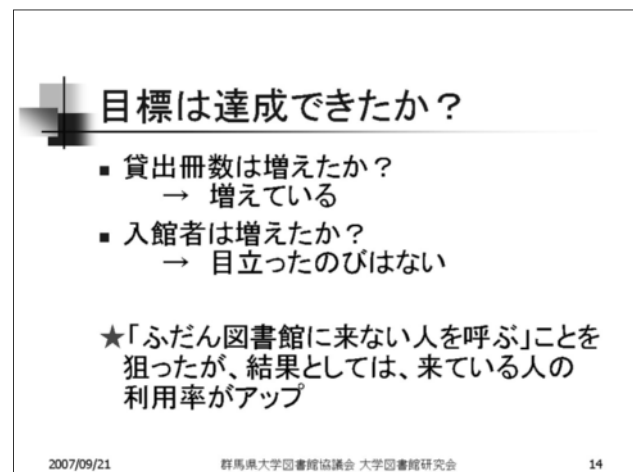
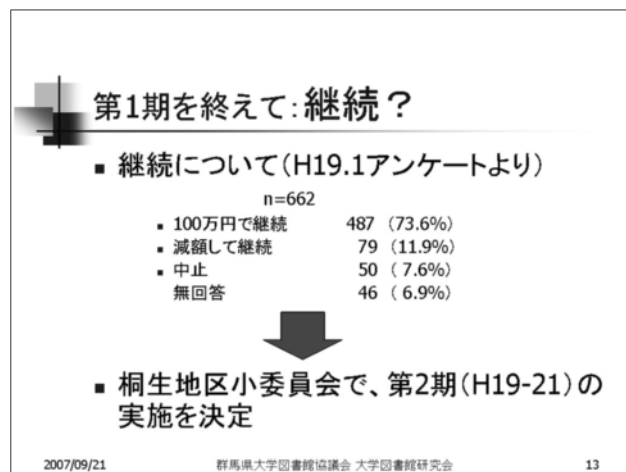
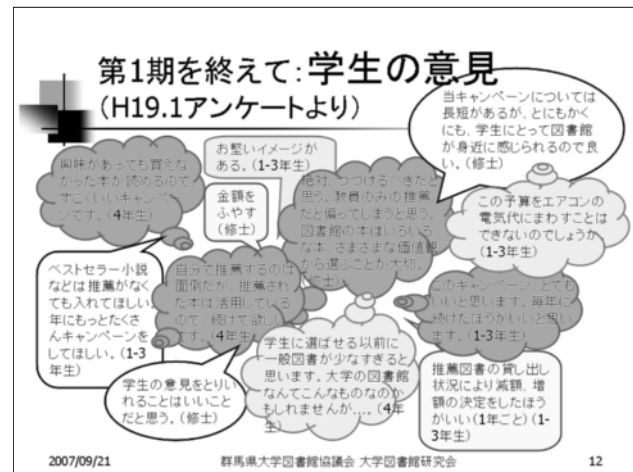
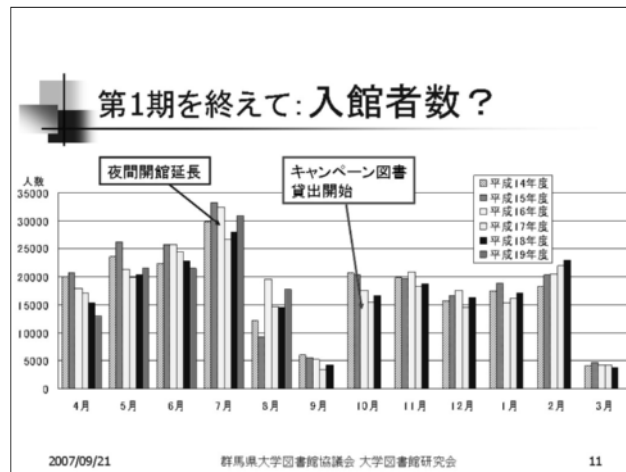
第1期を終えて: 貸出状況!



2007/09/21

群馬県大学図書館協議会 大学図書館研究会

10



◆「長岡技大の支援による高専図書館のサービス向上について」
群馬工業高等専門学校図書館

学術情報係長 堀口 純夫

[事例報告]

長岡技大の支援による 高専図書館の サービス向上について

群馬工業高等専門学校
堀口 純夫

1

0. 事例報告の概要

高専 ... 教育面：理工系の進学校、研究面：産学連携等

高いレベルの図書館サービスが要求される

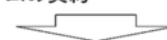
⇔ 高専図書館 ... 施設・設備・蔵書数・予算・

校内での位置付け等あらゆる面で小規模

★長岡技術科学大学附属図書館の高専図書館支援★

高専・技科大図書館シンポジウムの主催（年1回）

電子ジャーナル及びデータベースコンソーシアムの形成
統合図書館システムの契約



高専図書館の規模を超えたサービスの提供が可能に

2

1. 高等専門学校とは

(1) 組織

独立行政法人国立高等専門学校機構国立群馬工業高等専門学校
独法化により55高専が1つの法人。機構本部が統括。

(2) 教育システム

学科（5年）機械／電子メディア／電子情報／物質／環境都市
専攻科（2年）生産システム工学専攻・環境工学専攻

(3) 学生

高校1年生相当から大学4年生相当まで年齢的に幅広い学生。
学生の多くが理工系の国立大学へ編入学(大学院へ進学)を希望。

(4) 教員

教員のほとんどが理工系の研究者。

3

2. 高専図書館の現状 (1) 規模

蔵書数 78,000冊

収容能力 100,000冊（自動集密書庫増設）

閲覧室 120席

職員 3人（常勤2、非常勤1）
規則上も図書館ではなく「図書室」



あらゆる面で小規模

4

2. 高専図書館の現状 (2) 長岡技大の支援

長岡技術科学大学の強力な高専支援

① 高専－技大図書館シンポジウム

（高専間のヨコの連携強化）

② 電子ジャーナル及びデータベース・コンソーシアム

③ 統合図書館システム



規模の小ささをカバー

5

3. 電子ジャーナル・コンソーシアム

長岡技大が契約取りまとめ

開始年	電子ジャーナル/DB名称	備考	参加高専数等
1996	新外国雑誌目次データベース (Sweets Scan → Kanon)	目次 DB	43 高専
1999	IDREAL		Science Direct に統合
2000	ProQuest		契約中止
2002	ACS*	化学系 J	16 高専
2002	AIP/APS*	物理系 J	25 高専
2003	Science Direct*		50 高専
2004	JDream II*		55 高専
2004	MathSciNet*	数学系 DB	43 高専
2004	IEEE-ASPP		8 高専

*は群馬高専が参加しているもの
→ 教育にも研究にも対応できる体制

6

4. 統合図書館システム (1)経緯 群馬高専 業務システム更新までの経緯

平成11年3月 導入 (NTTデータ Nalis)

買取初期費用 + 年間保守料

ハードウェアの老朽化(パーツ交換が困難に)
サーバOSのサポート終了

業務システムの更新が急務

7

4. 統合図書館システム (2)概要 高専機構本部が参加とりまとめ、長岡技大が契約 国立高専42校が参加

(契約期間：平成19年3月～平成24年2月)

国立高専の図書館業務データを長岡技大のサーバに統合。高専には業務用PCのみを設置して、図書貸出や目録登録等の業務を行うシステム。



8

4. 統合図書館システム (3)統合OPAC 製品名 NEC (CMS) E-Cats Library



9

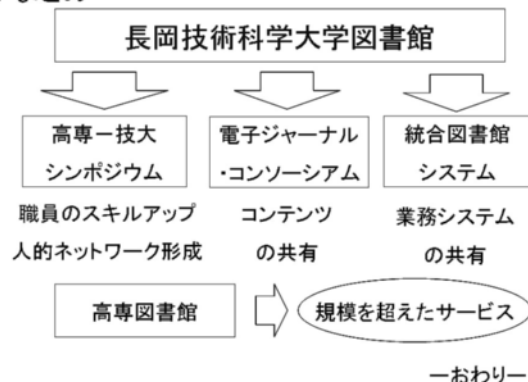
4. 統合図書館システム (4)メリット

■統合図書館システムにより高専が受けた恩恵

- ・システム契約事務不要 (仕様書作成、業者との交渉)
- ・経費節減 (従来の年間保守料程度の年間リース料)
- ・サーバ機器の管理不要
- ・その他、職員の様々な負担の軽減
- ・全国に散在する高専をカバーできる規模の業者に限定
- ・カスタマイズの制限 ("共有部分"はシステムに業務を合わせる必要も)
- ・旧システムからのデータ移行が複雑

10

5. まとめ



11



【後日談】

「統合図書館システム」が導入されて半年が経ちました。ここまでたいへん順調に稼動しており、使い勝手も極めて良好です。

長岡技術科学大学（以下、長岡技大）及び参加42高専のうち、長岡技大と37高専は平成20年3月までに新システムの運用を開始しました（残り5高専は平成21年3月）。データの統合が進むにつれ、システム開発業者による書誌調整等も行われているようですが、日常業務に支障が出ることはほとんどありません。これまで経験した業務システム更新の中で、今回ほどスムーズにデータ移行が完了した例はなかったように思います。

また、平成20年1月10日～11日には「統合図書館システム教育研修」が長岡技大を会場に開催されました。ここではシステム開発業者から講師を迎え、高専の担当者を対象にソフトウェア全般の詳しい説明と実習が行われました。同様の説明会は7月にも行われており、本校の職員2名は各々がこれに出席して十分なスキルを身に付けることができました。このような充実したアフターケアも、長岡技大が提供してくださる高専支援の特色と言えるでしょう。

もう一つ、電子ジャーナル等については、2008年も従来通り4つのコンソーシアムに参加できる運びとなりました。こちらもサービスの質を低下させることなく現状を維持できる見通しとなっております。

図書館の職員数が削減されている折、献身的に高専の支援を買って出て下さる長岡技大の皆様には、本当に頭の下がる思いがします。こうして快適なシステムで仕事ができるのも、スタッフの方々のひとかたならぬご尽力の賜物と感謝しております。

高専の学生は、驚くほど高いポテンシャルを秘めています。その能力を思い切り伸ばせる環境を整備していくためにも、長岡技大と高専との良好な関係が末永く続くことを切に望みます。（堀口純夫）

短期大学図書館から大学図書館へ － 高崎健康福祉大学の場合 －

高崎健康福祉大学非常勤講師

橋本登美雄

高崎健康福祉大学は、平成13年度（2001）に、旧群馬女子短期大学を母体に健康福祉学部1学部で発足しました。当時、群馬女子短期大学図書館に勤務し、短大から4年制大学への移行計画及び作業に関わったので、その事について、ご報告いたします。これは、今回のテーマ「魅力ある図書館を目指して」というよりは、その前段階の大学図書館としての体裁を整えるための報告になろうかと思います。しかしながら、魅力ある図書館もその延長線上に築くものであり、また、昨今短大から4年制大学への移行があちこちで進められており、そういう計画のある図書館には、参考になるのではないかと考えから、敢えてご報告することといたしました。

新たに大学図書館を設置するためには、組織・規程の整備から始まり、施設・設備の計画、資料の整備、職員の配置計画等があります。これらを順に箇条書きで述べると、次のとおりです。

1 図書館規程

1) 図書館組織図の作成（2000年12月）

- ・新設する4大図書館を本館とし、短大図書館を分館として、一体的な運営を行う。利用者は両方の図書館を相互に利用できるようにする。
- ・図書館組織図に基づいた規程（案）を12月の短大図書委員会へ報告

2) 規程の制定（2001年4月）

- ・図書館規程、図書館長選考規程、短期大学部分館長選考規程、図書館運営委員会規程、図書委員会規程、短期大学部分館図書委員会規程、図書館利用規程、研究室常置図書に関する細則

2 大学図書館（新設）の施設・設備

1) 施設 839.63㎡

- ・短期大学部分館は群馬女子短期大学の施設（304㎡）を名称変更して継承

2) 設備

①書架・閲覧机等

- ・書架収容力：66,640冊 雑誌架収容力：240誌 新聞架：12種
- ・閲覧席：97席 ブラウジングコーナー：7席 共同研究室：6席
グループ学習室：6席

②視聴覚機器

- ・AVブース室：5室（ビデオ、DVD、カセットテープ視聴）
- 拡大読書機：1台

③コンピュータ

- ・情報館（ブレインテック製）：短大と同じソフトウェアにし、Webサーバーを設置蔵書データベースの外部への開放を考慮したが、イントラネットによる学内での開放に留まる。（ソフトウェア及びセットアップ費 約640万円）

3 資料

1) 計画

- ・1999年度に次表のとおり購入及び移設計画を策定した。
- ・購入資料は、2000年5月に選定開始、図書館の完成まで、業者にストックし、整理（情報館への入力データ作成も含む）及び配架は、その業者に外注した。（外注費約540万円）
- ・移設資料は、大学用に装備したものを梱包して学内の空き部屋等に移動しておく作業を2000年9月～2001年1月に館員が行った。新図書館への移設は2001年2月7～9日に事務局職員等も含めて約40名で行った。

資料の購入及び移設計画

和		購		入		移		設
		洋	計	金額(千円)	和	洋	計	
図 書	開 設 時	4,800冊	1,200冊	6,000冊	22,200	10,234冊	1,746冊	11,980冊
	一 年 次	1,600	400	2,000	7,400			
	二 年 次	1,600	400	2,000	7,400			
	計	8,000	2,000	10,000	37,000	10,234	1,746	11,980
雑 誌	開 設 時	35種	15種	50種	1,035	35種	18種	53種
	一 年 次							
	二 年 次							
	計	35	15	50	1,035	35	18	53
視 聴 覚 資 料	開 設 時	50点		50点	1,965	91点	91点	
	一 年 次							
	二 年 次							
	計	50		50	1,965	91	91	

4 職員

- ・司書2人増員(1999年度 1人 2001年度 1人)

以上、開学までの移行計画・作業について、ご報告しました。

その後、本学は、平成18年度(2006)に薬学部、

看護学部を増設し、短期大学部（現在短大は児童福祉学科1学科）を継続しております。最近電子ジャーナルやデータベースも充実し、ようやく大学図書館らしくなってきたところであります。

高崎経済大学附属図書館の特色ある資料群

高崎経済大学附属図書館
室長補佐 井ノ口 雄久

1 高崎経済大学沿革

年 月	事 項	入 学 定 員
S 27. 3 . 1	高崎市立短期大学 商経科	200人
S 32. 3 .15	高崎経済大学 経済学部経済学科設置	200人
	附属産業研究所設置	
S 39. 4	経営学科設置	定員経済・経営学科各100人 計200人
S 40. 3	附属図書館完成	
S 45. 4		定員経済・経営学科各200人 計400人
H 3 . 4		定員経済・経営学科各300人 計600人
H 8 . 4	地域政策学部（地域政策学科）設置	地域政策学科180人 経済・経営学科 各250人 計 680人
H10. 7	附属地域政策研究センター設置	
H12. 4	大学院地域政策研究科（修士課程）設置	
H14. 4	大学院市域政策研究科（博士後期過程）設置 大学院経済・経営研究科（修士課程）設置	
H15. 4	地域政策学部ちいき地域づくり学科設置	地域政策学科150人 地域づくり学科150人 経済・経営学科 各250人 計 800人
H18. 4	地域政策学部観光政策学科設置	地域政策学科150人 地域づくり学科150人 観光政策学科120人 経済・経営学科 各250人 計 920人

2 全国郷土資料の収集

(1) 全国郷土資料コーナーの設置の経緯

- ・ H10.10.10 上申書
高崎経済大学郷土資料文庫設立趣旨
- ・ H12.10.25 H12年度第 3 回図書館運営委員会郷土資料コーナー設置

- ・ H13. 5 . 2 H13年度第 1 回図書館運営委員会
郷土資料コーナー設置小委員会 委員 4 名
- ・ H18. 3 「全国郷土図書資料目録」刊行
(8,074点 約11,000冊)

(2) 全国郷土資料費の予算化

(％は全図書費に対する割合)

- ・ H13年度 郷土資料コーナー設置図書
(仮称) 6.3%
- ・ H14年度 郷土資料コーナー図書 6.0%
- ・ H15年度 郷土資料コーナー図書 6.2%
- ・ H16年度 郷土資料コーナー図書 7.3%
- ・ H17年度 郷土資料コーナー図書 6.8%
- ・ H18年度 郷土資料コーナー図書 6.5%
- ・ H19年度 郷土資料コーナー図書 6.5%

(3) 配架場所 4階 集密書架

3 地方史研究協議会資料

(1) 受入れまでの経緯

- ・ H14.11.15 地方史研究協議会受贈図書の
寄贈について
受入れの3条件
一括保存
会員への閲覧
資料受贈の運搬整理を高崎経済大学にて負担
- ・ H18.3 「地方史研究協議会資料目録」
刊行
(図書 4,352点 雑誌 882点
計 約10,000冊)
- ・ H19.3.19 協定書(高崎経済大学附属図
書館と地方史研究協議会)
2007年以降、年1回寄贈
仮目録作成後、所有権移転
運搬料は高崎経済大学が負担
- ・ H19年度 受贈予定

(2) 配架場所 5階 集密書架

その他の文庫 (4階 集密書架)

- ・ 毛利家文書
- ・ 飯塚・中村・前田・大沢・都築・徳田・真保・
川村各文庫

参加者からの声

<全体的に>

- ・ パワーポイントを使用した発表を間近で見ることができた。資料の作成方法やプレゼンテーションの仕方が大変参考になった。
- ・ 配付資料のデータ(特に統計資料)が豊富で、今後の業務の参考になった。

<学生参加型企画”学生図書選定”キャンペーンを実施して>

- ・ 学生のニーズをどのように選書に反映させるかが本学の課題である。「総額100万円買っちゃうぞ」キャンペーンの事例発表は、タイムリーで、すぐに活用できる充実した内容だった。また、発表から、学生が生き生きと選書に参加している様子が伝わってきた。イベントの実施には、館の体力不足から慎重になっていたが、一歩前に踏み出す勇気もらったような気がした。

<長岡技大の支援による高専図書館のサービス向上について>

- ・ 統合図書館システムを高専機構本部がとりまとめ、長岡技大が契約している例を聞いて、公立大学間には見られない先進的な取り組みだと感じた。システム運用開始に当たっては、各高専図書館にとって、相当な業務量増であったことが推察された。今後、学術情報を扱う大学図書館員には、オンラインデータベースや電子ジャーナルに関する深い知識に加えて、他機関との調整能力や出版社との交渉能力が求められるのだと感じた。

<短期大学図書館から大学図書館へ>

- ・ 大学図書館を新設し、既存館から資料を移設するには、規程の整備、学内の調整など、周到な準備が必要であることが分かった。また、購入と移設計画において、図書館員が担当すべき業務と外注できる業務が分かりやすく説明されて、勉強になった。

<全国郷土資料の収集>

- ・ 特色のあるコレクションを持つ大学図書館は、それ自体が図書館の魅力であり、大変羨ましく思

えた。しかし、「資料の活用方法が課題」との貴重な報告があり、資料の特色を生かすためには、収集・組織化の先にある提供の「在り方」が重要であることが分かった。

<自由討議>

- ・自由討議で、魅力ある図書館について、「必要とされる資料が充実している」、「快適な学習スペースが確保されている」、「学生が相談しやすい雰囲気がある」などの意見が出ていた。このように、利用者の立場から、大学図書館の本質を見つめ直す機会はなかったと思う。とても良い機会になった。
- ・自由討議の内容に学ぶことが多い。大学図書館間の情報交換の機会は大変貴重なので、今後も積極的に参加したい。

お知らせ

群馬大学総合情報メディアセンター図書館

改修工事に伴う閉館

図書館は下記の期間休館となります。

なお、改修期間中はGB棟1階の1教室を仮閲覧室とし、利用者提供サービスを新着図書・雑誌、新聞、基本参考図書の閲覧、コピー利用等に限定させていただきます開室する予定です。

利用者みなさまには大変ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

平成20年7月～平成21年3月(予定)

トピックス

育英短期大学図書館

当館では毎年ささやかな企画展を行っています。昨年は次のような内容で企画・展示を行いました。

1. 新作を加えて「この映画の原作、知っていますか？」PART 2

2007年9月10日(月)～10月28日(日)

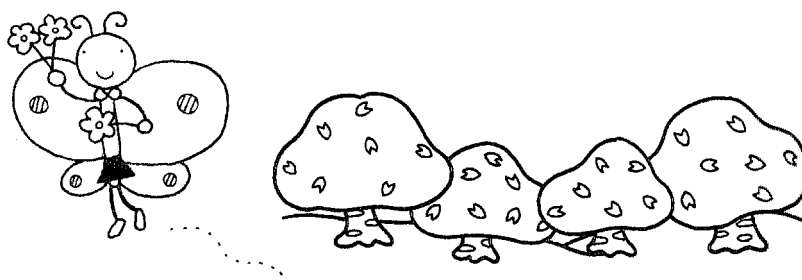
*当館所蔵の映画作品のDVD・ビデオと、その原作本を一緒に並べて94作品紹介しました。

2. 「しかけ絵本展」

2007年12月3日(月)～2008年1月31日(木)

*好評のため毎年恒例となっている企画展です。当館所蔵のしかけ絵本の内、通常開架できない作品を展示して、手に取って見てもらっています。

今回も新作を加えて95作品紹介しました。



第5回群馬県図書館大会 ～ 進化する図書館 広がる図書館の可能性 ～

平成19年11月29日(木)、第5回群馬県図書館大会が群馬県立図書館と前橋市総合福祉会館を会場として開催され、353名の参加がありました。大会は例年どおり2部構成で、午前中は大会行事と三田誠広氏による「作家と図書館の共通理念とは何か」をテーマとした記念講演が行なわれました。三田氏は現在、日本文芸家協会知的所有権委員長、日本文芸著作権センター理事長を兼務され、講演では、作家の立場から図書館と著作権との関わりについて具体例をあげ言及されました。

午後には、館種別に3つの分科会が開催されました。分科会はそれぞれ、第1分科会は公共図書館「本からひろく子どもの笑顔 ～公共図書館と小中学校図書館の連携～」、第2分科会は大学図書館「高校から大学へのリレー ～利用者教育のバトタッチ～」、第3分科会は小中高の学校図書館「学校図書館の『読書』を考える ～読書案内・私のアプローチ～」をテーマとして行なわれました。

大学図書館が担当した第2分科会では、ネット教育アナリストで「子どもといっしょに安心インターネット（全3巻）」(岩波書店、2005)の著者である尾花紀子氏により「ネット時代の危機管理～何が危険なの？ どうトラブルを避けるの？を一緒に考えよう～」と題する基調講演が行なわれ、それに続いて2つの事例発表(松浦政子氏・福田節子氏「高等学校図書館の利用指導」、井田真理子氏「群馬県立県民健康科学大学における『図書館利用オリエンテーション』について」)が行なわれました。その後、休憩をはさみ、講演者・発表者を交えた全体討議が行われ、インターネットの危険性への対応を含め、小中高における情報活用能力育成の成果が、大学における教育・研究へとスムーズに引き継がれてゆく流れを確実なものとしてゆく必要性が、参加者のなかで共有できた分科会となりました。



編集後記

本協議会の主な事業のひとつとなっています大学図書館研究会は、平成18年度から、3月の総会終了後の開催を加え年2回開催することになりました。例年、研究会はテーマに即した講師の講演、その後、講師を交えての質疑応答、といったお決まりのパターンでしたが、今年度第1回の研究会では現場からの生の声に触れていただこうと、図書館職員の方々に「魅力ある図書館を目指して」熱く語りかけていただきました。この他にも、資料補修の実習など、参加型の研究会もあってもよいのではないかと感じました。こんな企画あんな企画などございましたらどしどしお寄せください。